

税と社会

美深町立美深中学校 三年 青木 健輔

世界各国には税という制度がある。日本も例外ではない。私は、この税の使い道について、何度か疑問を抱いたことがある。消費税や所得税などで納められた税金は、どのように使われているのか、と。

私は、その疑問について調べることにした。その結果、税は主に社会保障に使われていることが分かった。(社会保障とは医療や年金などの公的サービスのことを指す)日本に住んでいる人々は、この税のおかげで、病院の治療費の負担軽減や、六十五歳以上で年金受給などの恩恵を受けられる。私も、税のおかげで教科書が無償で受け取ることができた。このように、税は人々の生活を豊かにしてくれる。

しかし、最近では、増税などの影響で、国民の負担が大きくなってきている。更には、政治家の裏金問題もあり、国民の税への不信任は高まっている。ただ、税は国民が幸せに暮らすためには必要なもので、国を運営するためにはなくてはならないものだ。

実際に、太平洋南西部に位置するナウル共和国では、一九六八年に独立を達成したあと、自国のリン鉱石の採掘を始め、莫大な収入を得た。その結果、医療費、学費、水道・光熱費、税金さえもタダになる「夢のような時代」が三〇年続いた。その後、資源は枯渇し、国の経済は破綻、現在も近隣先進国の援助を受けている。この事から分かるように、税というのは、必要か、そうでないかの問題ではない。必ず必要ではあるが、国民の信頼を得るのが難しいものではないだろうか。

そして、そんな課題を克服したのが、ヨーロッパ北部にある国、デンマークだ。デンマークは、消費税率が二五パーセント、所得税も四〇〜六〇パーセントと、世界一税金の高い国であると同時に、二〇一六年の国連の調査で「世界で最も幸せな国」ランキング第一位に選ばれたのだ。これは、税金が高い分、社会保障に使える金額も大きく、学生への支援も手厚いため、生活への不安が少なくなるのが、一つの理由となっているのではないだろうか。高い税金を払う分、生活をより豊かにしてもらおう、国民もそういった考えを持つことができ、不満も少なくなり信頼を置けるのだろうか。

税というのは、国民との信頼関係が大切だ。国民も、自国の税について関心を向け、国への信頼を置き、国もまたその信頼に答えられるように、税の使い方を工夫し続ける。そういったものの先に、豊かな社会というものが待っているのではないだろうか。